



# 「双櫂に託した思いを胸に」



松前支会長  
(原口小学校)  
小林基英

松前城、二五〇種一万本におよぶ桜で知られる当町には、小学校七校（白神小・松前小・松城小・館浜小・小島小・大島中・大島中）と松前高等学校があります。いずれも、松前町にふさわしい豊かな地域文化の創造を目指し、優れた自然、歴史、文化等の特色を生かした教育を展開しているところです。その中から、原口小学校について紹介させていただきます。

原口小学校は、国道二二八号線を松前の本町から江差方向へ車を走らせると、左手には変化に富んだ海岸線が続き、天気の良い日には大島・小島を遠くに眺めながら約三〇分程のところにあります。

小学校の校門の横に二本の櫂がそびえ立っています。櫂は本来北海道には自生しない木であることから植樹されたものと思

われます。なぜ校門の両側に櫂を植えたかということについては前校長先生が次のように書き記しています。『ケヤキの語源は「けやけし」から転じたものといわれています。『けやけし』とは、『きわだつている・きわだつてすぐれている』という意味です。学校の校門に植える樹木としては最適です。しかも校門を通って登下校する子どもたちを毎日見守り、その成長を願っているのではないでしょうか。』と。

双櫂に託した先人の想いを受け継ぎ、創造し行動する本校夕陽会員は、稲岡敬人教頭、野沢和則教諭、吉田実千代教諭、長島幹伸教諭の五名です。今年度

松前支会の事務局を担当し、会員相互の親睦を深める活動、地域においては、町内会との合同運動会を推進する活動、祭典行事をもちあげる率先した取組、集会活動の充実に向けた取組等意欲的に推進しています。

## 職員室

# 「木古内の坊に学ぶ 同窓の絆」



木古内支会幹事長  
(木古内中学校)  
林敏雄

天保二（一八三二）年神社守の夢枕に「御神体を潔めよ」とお告げがあり、目を覚

ますと寒気肌さす一月十五日の朝でした。神社守は直ちに真下を流れる佐女川の氷を打ち砕き、身を切るような冷水で自身を清め、御神体を抱いて海岸に臨むと、大鯰の背中の上に白衣をまとった美しい女性の姿が見えました。「聖なる神の使者」と信じ、御神体を幾度となく沐浴しました。

その年から、豊漁豊作が続いて村は大変賑わったという。以来、「みそぎ祭り」は伝統行事として今日まで一七六年間続いています。

夕陽会木古内支会事務局は、そんな伝統ある佐女川神社近くの木古内中学校にあります。町

内には他に木古内小と鶴岡小があり、現職会員は二六名、在任会員十名の計三六名です。若い会員が多く、平成の卒業生が七割を占め、活気のある支会です。

さて、木古内中学校には、偶然ですが、夕陽会会員のみの学年団があります。先日、その学年団で「木古内の坊」を題材にした学年道徳の公開授業が行われました。一四〇年前に木古内町に実在し、戸籍やお墓もある「木古内の坊（川又友吉）」。目が不自由だったが家族を養うために付け木を背負って各地を売り歩いた孝行者。授業では、物語の一部を学年団教員が劇化し、現在の人が忘れがちな純真な気持ちや感謝の心について考えさせるものでした。生徒は、身近な人物に自分を重ね合わせ、真剣に臨んでいました。学年団の呼吸もぴったり。すばらしい演技ができ、授業のねらいに迫る非常に効果的な生の資料になりました。

同窓という絆でつながれた会員同士。そんな温かさのある職員室から木古内中学校を感じ取っていただければ幸いです。

支会だより

先輩諸氏と絆を深める



森支会長  
(尾白内小学校)  
堀 口 一 駿

秀峰駒ヶ岳のふもとに広がる森町。古くから文化・地理的にも結びつきが強かった砂原町と平成十七年四月一日合併し、新生「森町」が誕生しました。それに伴いさわら小学校、砂原中学校を加え、小学校八校・中学校二校の計十校、会員七十五名と本部前納会員・支部終身会員の方四十五名の合計百二十名で森支会を構成しています。

古くからアイヌ語でオニウシ(樹木の多くある所)と呼ばれていた森町は、漁業の町として江戸時代初期より栄えていた町です。風光明媚、春は青葉ヶ丘公園の「ソメイヨシノ」やフラワールードの「八重桜」が咲き乱れ、夏は内浦湾からの風が爽やかに町を吹き抜け、秋は鳥崎八景をはじめとする紅葉が町を彩り、冬は駒ヶ岳の稜線が輝き荘厳な様相を呈し町を見守ります。

支会だより

同窓の絆



七飯支会長  
(東大沼小学校)  
田 鎖 正 志

七飯町は豊かな大自然に囲まれ、秀峰駒ヶ岳・大沼を中心とした観光と特色ある農業で知られた、豊かで活力のある町です。平成十八年度の七飯支会は、二十一名の新会員を迎え、現職会員百九名の構成です。また、退職された方々が七飯町に数多く在任されていて、OB会員二百三十三名の大所帯です。

今年度の活動方針は①会員の同窓意識の高揚を図る。②会員相互の助け合いを図る。③本部・支部との密接な連携を図る。④情報活動の活発化を図るです。事業計画は、①会員相互の親睦、団結に必要な調査及び行事。②本部・支部との連携及び協力。③情報・資料の提供。④「夕陽ななえ」の発行。⑤在任会員と現職会員との交流です。五月三十日、夕陽会七飯支会総会・懇親会を七飯町「かみむら」で開催しました。本部から

須藤幹事長様、渡島支部から藤枝支部長様をお招きし、会員二十四名、OB会員八名が参加して行われました。また、当日、出席はできませんでしたが、在任会員六十五名もの皆様からメッセージをいただき、改めて同窓の絆の深さを感じました。

懇親会では、新入会員からOB会員まで、それぞれの近況報告、さらに、学生時代の懐かしい話で大いに盛り上がり、おいしい料理と銘酒であったという間に時間が過ぎてしまいました。最後に全員で寮歌を斉唱し、同窓意識の高揚と交流を十分図ることができました。

本支会会員は、七飯町の子どもたちを「確かな学力」「豊かな心」「健やかでたくましい体」をバランスよく育むとともに、自立的な活動基盤となる学習習慣が確立されるよう、創意工夫をこらし、それぞれの学校づくりに取り組んでいます。

母校のあり方が変わろうとも、夕陽会員としての絆を深め、夕陽会の発展と教育活動の充実に努力していきたいと考えます。

# 新会員だより

## 「夕陽のありがたさ」



五稜支会  
(渡島教育局)  
大 堂 讓

昭和五三年三月、卒業の手続きの折り、夕陽会(ゆうひかいと読んだ)を知り、以来、福島町、函館市で教員を十六年間経験させていただきました。この間、夕陽会以外の教員が異質(失礼)に思われ、右も左も夕陽の教員ばかりで、ありがたさなど、感じることはありませんでした。その後、平成六年四月から、室蘭市教委、十勝教育局、上川教育局、胆振教育局、渡島教育局、檜山教育局、そして、再度、渡島教育局と教育行政十三年目となりました。行政に出て、一番不安に思ったのが知っている方がほとんどいないこと。そんな中、夕陽の先輩や同期、後輩がいてくれたことは、どんなにか心強く、ありがたさを痛感したものです。まったく知らない先輩にいろんな面で助けられました。ただ、同窓というだけです。本当にありがたかった。今、改めて、故郷で仕事ができる喜びを感じ、精一杯、頑張りますのでよろしくお願いたします。

## たくさんの出会いに

### 感謝



五稜支会  
(渡島教育局)  
松 田 賢 治

渡島管内の中学校で教員生活を過ごし、平成十年から三つの教育局での勤務を経て、この四月に、久しぶりに渡島での勤務をさせていただいております。函館の地へ戻り、懐かしい潮の香りに新たなエネルギーをもたらしている感じです。

道内各地でたくさんの夕陽の先輩・後輩と接する機会を得ました。人との出会い、実践との出会いなど、出会いはどこにもあつた気がします。

これらの出会いを大切にしながら日々を送ることができれば、豊かな学びや素敵なアイデアとの出会いができると思います。今後も一期一会の気持ちで過ごしていけたらと考えています。創造し行動する夕陽会員の一人として肩肘張らずに地道に努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

## 「共育」の思いと 心からの笑顔を忘れずに



松前支会  
(小島小学校)  
小 熊 良佳子

三月に大学を卒業し、この度初任として松前町に赴任してまいりました。四月に赴任してからは毎日が新しい発見の連続で、太陽のような子どもたちの笑顔にパワーをもらいながら、忙しくも幸せな日々を送っています。

教師となつて半年、目の前にいる子どもたちの何気ない言葉や表情から気づく事・学ぶ機会が数多くありました。そんな子どもたちの気持ちや変化をしっかりと受けとめてあげられるように、どんな時でも一人ひとりの子どもたちと真直面から向き合う教師でありたいと思えます。

まだまだ未熟な私を、様々な場面で支えてくださる学校や町内の先生方に本当に感謝しています。これからも子どもたちと共に学び、成長し合っていく「共育」の思いを忘れず、心からの笑顔で精一杯頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

### 「子ども達の笑顔に 支えられて」



松前支会  
(白神小学校)  
手塚 明子

三月に養護教諭特別科を修了して四月より新採用となりました。基本的な学校の流れをつかむだけで早くも半年が経ち、このままではいけないと焦りを感じているところです。

全校児童十二名の小規模な小学校ですが、だからこそ一人ひとりの子どもの顔が見えて毎日色々な発見があります。子ども達を元気にする立場にある私ですが、今は子ども達から楽しい気持ちや仕事へのエネルギーをもらってばかりです。一人ひとりの個性を大切に、今以上に子ども達の笑顔を増やしていきたいと思っています。

失敗ばかりの自分にいつも叱咤激励してくださる諸先輩方から感謝致します。決して歩みが早い方ではありませんが、諦めずに一步一步確実に踏み固めていきます。これからもどうぞ宜しくお願い致します。

### ベテランの「新入会員」



福島支会  
(吉岡小学校)  
浜田 寛

松山で三二年を過ごし、人事異動区分の「南・中・北・奥尻」のすべてを経験しグラウンドスラムを達成。「今度はわがままに自分の希望を」と邪心を持つものだから「もうすぐ渡島と松山は一つになる」と先手をとられ渡島に派遣されてきました。

支部歓迎会では学生時代をとも過ごした思い出深い面々に声をかけられ「夕陽は一つ」の思いを強くしました。反面、「新会員」の原稿を依頼されると人生の半分以上を過ごした松山に思いを残す自分を再認識させられます。

とはいえ子供がいるから学校があり、今を生きる子供たちの課題は共通です。「夕陽渡島」という大きな輪の中に加えさせていたいただいた恩恵を十分に生かしながら、「新会員」として皆さんと共に歩んでいく覚悟です。どうぞ宜しくお願いします。

### 「子どもと共に」



知内支会  
(湯ノ里小学校)  
丸山 敏儀

豊かな自然と温かな人々に囲まれ、九年目の教員生活がスタートしました。幼い頃から函館で過ごしてきた自分にとって、見知らぬ土地「湯ノ里」に赴くことは、楽しみであり、不安でもありました。学級児童十名の複式教育は、新たな挑戦意欲をかき立てるのに十分すぎる環境でした。

この環境の中で学んできた子どもたちは、実にたくましく、間接指導の間であつても、真剣に、一人であるいは仲間と学習を継続しているのです。私にとつては、このことは驚きでした。何気なく仲間を助け、当たり前のように給食を全員で用意し、当たり前のように学校全体を全員で清掃する。この姿に、私自身も励まされています。これからも、子どもとの出会いを大切にして、子どもと共に育っていききたいと思えます。

### 「初めての教壇」



北斗支会  
(上磯中学校)  
小林 元貴

この度、三月に大学を卒業し、右も左もわからない状態で、上磯中学校に赴任いたしました。上磯中学校は大規模校で、たくさんの先生方にも支えてもらい、子ども達と共に学び合う毎日を過ごしています。

実際に、初めての教壇に立ち、授業は不慣れの毎日で、心の中はいつもドキドキです。ただ、子ども達が「できた！」って顔をすると喜びを感じています。また、普段子ども達と過ごしていて、子どもとの関わり方で難しさを感じています。子ども達とはうまい具合に、水車のような関係をつくっていききたいと思えます。これからも、日々努力、日々勉強。子ども達の成長と共に、自分自身も成長していくために、頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いします。

## 子どもたちとともに



北斗支会  
（浜分中学校）  
中尾 由美

私はこれまで日高管内えりも町立笛舞小学校、附属養護学校、附属函館小学校で勤務し、熱心な先生方や素敵な子ども達から多くのことを学ばせていただきました。そして今回、渡島会員の仲間入りをさせていただくことを大変喜ばしく思っています。

現在は障がい児学級で、今年初めて中学校生活を送る子ども達とともに試行錯誤の毎日を送っています。子ども一人ひとりの思いを受け止められずに自己嫌悪に陥ることもありましたが、子ども達が見せてくれる小さな変化や成長が喜びとなり、次へのパワーへとつながっています。私は小・中学校時代の恩師に憧れて教師を志しました。そして念願の教師を続けられている今、私を育てて下さった渡島の先生方への感謝も込めながら、これからも子ども達とともに歩んでいきたいと思っています。

## 「人とのつながり、大切に」



七飯支会  
（七飯中学校）  
新蔵 素子

この三月に教育大学函館校を卒業し、念願叶って、七飯町立七飯中学校で新採用となりました。生まれ育ち、学舎のある函館市の隣町、豊かな自然と温かな人々が溢れる七飯町での勤務に、ご縁を感じています。

四月からの毎日は、緊張と学び、新たな出会いと経験の連続です。余裕がなく、走り回ってばかりの毎日ですが、生徒の明るい表情や頑張る姿、先輩方からの温かい励ましから、多大なるエネルギーをもらって、今の私があります。念願叶って教師になれた喜びと初心、そして未熟な私を支えて下さっている方々への感謝の気持ちを忘れず、目の前にいる生徒と共に成長していきます。今後とも人とのつながりを大切に、お世話になった分、還元していきたいと思えます。今後ともよろしくお願ひ致します。

「地域との共生の学校」  
づくりをめざして

森支会  
（赤井川小学校）  
茶碗合 稔

初めての渡島。緊張と不安の中、森町立赤井川小学校に赴任して早七ヶ月。

児童十二名、教諭二名と養護教諭、地域に信頼が厚く献身的な動きの公務補、教頭、校長の職員六人・二学級の学校である。父母はもとより、町内会・地域の方々が学校をあらゆる面で支えて下さっていることに心強さを感じた。また、豊かな自然とマッチした校舎の赤色のトタン屋根が妙に懐かしさを感じさせる。

優しく迎えてくれたこの地域と学校のために、自分が自分らしく、子ども達のために最善を尽くす日々でありたいと願う毎日です。そして、これからも地域に生き、地域に学ぶ『地域との共生の学校』としての役割を認識し、これまで築き上げた素晴らしい教育財産が児童一人一人に定着することを願うものです。

「諸先生方へ  
支えられながら」

八雲支会  
（落部小学校）  
下山 直人

この度、初任として八雲町立落部小学校に赴任し、早くも半年以上が経ちました。大学を出たばかりで、わからないことだらけの私ですが、この半年間は子どもと精一杯向き合ってきた。担任している学級は十人という少ない人数ですが、個人的なメンバーがそろい、よくも悪くも毎日新鮮な出来事ばかりです。そんな子どもたちとふれあいながら教師という職業の喜びを感じつつ、自分の至らなさを痛感している毎日です。

ここまで半年間やってこれたのはひとえに諸先生方のおかげです。私の学級で起こる様々なことを、気にかけていただき、さらに多くの助言を頂けていることに本当に感謝しています。初任のうちに先生方から多くのことを吸収し、自分の糧にし、教師として成長していきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひ致します。

新たな気持ちで



八雲支会  
(八雲小学校)  
志津野 剛 一

この度、初任として、八雲町立八雲小学校に赴任しました。八雲町とはご縁があり、函館市内を臨時採用として勤務した四年前までは、八雲町の各校で二年ほどお世話になりました。八雲小学校でも半年ほど経験させていただいたので、四月に赴任したときには、懐かしい気持ちでいっぱいになりました。正式採用となって、八雲町に戻ってくるのができましたが、少しは慣れた環境：：と甘えることなく、教員としての自覚をしっかりと持って、新たな気持ちでがんばろうと考えています。失敗と反省の毎日ですが、子どもたちの笑顔と、職場の先生方に支えられて、充実した毎日を送ることができています。

「よろしく  
お願いします。」



八雲支会  
(雲石小学校)  
白 取 悟

この度というか、昨年の十月から熊石町と八雲町の合併に伴い渡島の教育に携わってききました。早いもので一年が過ぎました。

初めは諸調査物の様式などが微妙に違っていたりして戸惑いもありましたが、やっと慣れてきました。渡島の前は勿論檜山でしたが、その前は宗谷に十六年間お世話になりました。今は合併しましたが枝幸町と歌登町に十年間と六年間。檜山では奥尻町、大成町、北松山町、熊石町。そして今回、渡島の八雲町。全部で七町七校目ということになります。函館に生まれ育ち大小学まで函館に居たので宗谷での経験は貴重なものがありました。

これから、渡島の教育にどっぷりと浸かっていくことになると思います。まだまだ渡島のかげ出しですが、どうぞよろしくお願いします。

「渡島支部会員として」



八雲支会  
(泊川小学校)  
永 倉 裕 範

昨年十月に熊石町と八雲町が合併し、新八雲町が誕生しました。年度途中での行政区の変更でしたので、何かと戸惑うことも多くありましたが、一年が過ぎ、新町そして渡島にもだいぶ慣れてきたように思います。

教員生活の振り出しは、根室(北斗小・八年)でした。その後、檜山管内の大成町(現せたな町大成区平田内小・七年)、熊石町(現八雲町雲石小・七年)そして、現任校が二年目となります。檜山管内が十五年と長くなりました。

元々生まれ育ったのは、管内の森町です。中学卒業まで過ごし、高校・大学は函館市でした。ですから、渡島は、紛れもなく私の故郷になります。

これまで、決して真面目とは言い難い夕陽会員でしたが、心機一転がんばります。今後ともよろしくお願い致します。

「愛情の大切さ」



八雲支会  
(八雲中学校)  
森 泰 司

宗谷管内の猿払村立拓心中学校に七年間勤務し、この度、ご縁があって、八雲町立八雲中学校に赴任してまいりました。

地元が渡島であり、十年振り返ってくるのができてとても嬉しく思います。また、友人も多く心強く感じています。

教師となり、生徒たちと過ごす日々は、発見の連続であり、また、自分自身の力不足に反省させられる毎日です。ある本に子どもは自分を愛してくれる人の言うことをきくと書いてあるのを読んで気が付きました。自分の指導力の不足は、真剣にその子に愛情を注いでこなかったのが原因だト：：。

それからは、謙虚な気持ちで一人一人に愛情を注いでいこうと努力していますが、なかなか思い通りにいかないことも多く、諸先輩方のアドバイスをいただきたいと思っております。

初心忘れず、  
初心焦らず



八雲支会  
(熊石第二中学校)  
岩 丸 香 澄

四月、期待と不安を抱えながら、熊石第二中学校に初任として赴任してまいりました。これまでの七か月、戸惑いや悩むことの連続でしたが、周りの方々との励ましに支えられ、新鮮で充実した毎日を過ごしています。

授業のたび、生徒と関わるたび、未熟さを感じる一方で、「わかった」と言う生徒の表情を見ると、生徒以上に嬉しくなります。生徒が学校生活の中で、心から笑顔になれる瞬間が少しでも増えるよう、授業はもちろんその他の時間でも、関わり合っ

ていきたいと思っています。一年目ということで、悩みは尽きませんが、採用通知を手にした時の喜びを忘れず、また学生時代に友人と語り合った理想に向かい、いつまでも学び続ける教師でありたいと思います。これから、どうぞよろしくお願

子どもたちと多くの  
先輩に支えられる日々



長万部支会  
(長万部中学校)  
郡 司 直 孝

四月に長万部中学校に初任者として赴任し、早いもので半年以上が経ちました。これまで、子どもたちと多くの先輩に支えられ、充実した日々を送っております。また、小さい頃から憧れていた「教師」という職業の責任の大きさと、他の何にも変えられない喜びを実感しております。

長万部町は海と山に囲まれた夕陽の大変美しい町です。町民の皆さんに励まされ、諸先輩の先生方にたくさんアドバイスを頂きながら、毎日悩みながらも、とにかくがむしゃらに授業や部活動に精一杯励んでおります。

「子ども」を中心にし、常に子どもたちのそばに寄り添う教師でありたいと考えております。これからも、全力で多くのことを学んでいきたいと思



平成18年度「大懇親会・新会員歓迎会」 〈「夕陽讃歌」斉唱〉



〈新会員自己紹介〉



# 終身会員

## の 声

### 随 感



昭和三十二年卒 一類  
羽 原 義 満

退職して十二年目になるね。今までこの種の原稿依頼には、決まって山菜採りと魚釣りで過ごしていますと言ってきましたが、視点を変えましょう。

退職したら、現職時代出来なかつたことを思う存分してみたいというのがツヨイ願望でした。所が、これは、妻にいわせれば余りにも自己中心的で、配偶者に対する思いやりがなさ過ぎるというのである。

よく聞いてみると妻は妻で、子供達のこと、夫のこと、それこそ身を粉にして支えて来た。夫の退職を機に、今までしたくても出来なかつたことを是非させて欲しい、半分といわないまでも家事の分担もして欲しいというのである。これには驚いたし、反論もしてみたが、結論的には、反省もし、次のようなことを行っています。

その一つ目、住宅の裏が芝の斜面になつているので年五回芝

刈機で草を刈る。二つ目が、窓ガラス拭き、これまた年五回。三つ目、年一回専門の庭師による剪定等行っていますが、小樹木、例えばツツジ、サツキ、シヤクナゲ、アジサイなどの花の手入れをしております。

その他日常的なものとしてはフトンの上げ下ろし、イオン水生成器の洗い流し、朝食の自分の分の支度、水洗トイレの便座の下のティッシュ拭きをします。妻にいわせれば、将来を考え、炊事と洗濯は必修の事です。

### しつかり地域に

### 溶け込んで



昭和三十二年卒 一類  
半 田 愨

本部前納会員、支部終身会員の資格をいただいてから、早いもので既に十二年目を数える。

現職中の在任期間が十一年と一番長かつた縁から、森町に居を定めた。今は本当に良かったとつくづく思っている。何と言つても気候がいい。日常的な事務処理事項や買い物等も、全部

徒歩で済ませられる利点もあり、運転をしない私には有り難い。

町内会に軸足を置いて、老人クラブ関係やら神社・寺院の仕事にも関わらせていただきながら、毎日を楽しく過ごしている。

それというのも、退職移住してから知己を得た無二の仲間に恵まれたことが大きい。森小在職中にもきつとどこかの飲み屋で会つていたことと思うが、話し交わすことはなかつた。それが葬儀の手伝いの時に席を同じくしてからすっかり仲良しに。

町内会館の備品等の整備作業や神社用品の整理整頓に至るまでしつかりコンビを組んで取り組んでいる。飲む時も勿論一緒！

さて、現職時代に関連する機関にもまだ関わらせていただいている。ここ渡島夕陽の顧問を仰せつかつてからでも七年目となる。退職校長会渡島支部の監事の役も長くなり過ぎたと思つている。教員初任校であった亀田小学校のOB会には、初回以来の皆勤を堂々維持している。

まあ、あと何年持つか予測はできないが、元気で長持ちを続けたいものである。

# 生きがいある遊行期を



昭和三十二年卒 二類  
平野 毅

ある本を読んでおりましたらインドの人生哲学では人の一生を四季になぞらえて、春は学生(がくしょう)期(青少年期)、夏は家住期(壮年期)、秋は林住期(熟年期)冬は遊行(ゆうぎょう)期(老年期)と書かれていました。私は今、遊行期で余生を楽しんでいる時になります、同年輩の仲間には合言葉のように「日が経つのが早いなあ」というのが挨拶がわりになります。飛び去っていく時間と追いかけてくる老を思うと遊行どころか苦行を感じます。

そんな苦行を忘れ少しでも生きがいのある生活をしようと函教互のサークル活動で絵画や書道を楽しんでいます。

今年も先日、芸術ホールの地下ギャラリーで函教互サークル展示会が開催され、私も粗末な作品ですが油絵二点と書一点を飾らせていただきました。そして、サークルの仲間や夕陽の先

輩、後輩、同期の方々から励まされたり、冷やかされたりして、笑いながらの遊行期を過ごしております。

もう一つの生きがいは、体力作りを兼ねての農作業です。作物を育て、収穫する喜びを味わっております。かれこれ十年も続けていますと一端の農家になったような気分です。今年七月の低温が祟ったのかやや不作でした。

終わりにになりましたが夕陽会渡島支部の益々のご発展を心より祈っております。

.....

## 雑感



昭和三十二年卒 二類  
船橋 瑩次

このところ出不精というのか外出するのに億劫さが先立つようになつてきた。

そんな心の変わり様は老化に伴う身体の衰えや病気が影響しているようである。

この数年で耳が遠くなり補聴器の世話になつている。左耳は子供の頃の中耳炎が原因で難聴

だったのに、右耳もすっかり遠くなり会合などで人と話すのが苦手になつてしまった。

さらに、両足の大腿部の動脈硬化で手術して五年目、動きはよくなつてきているが立居、長く歩くのが辛い。

老齢化のすすんだ今日、この程度の不自由を抱えておられる方は多いことと思われる。

今年の夏、友人からパークゴルフに誘われた。緑の自然をマイペースで歩きながらのプレーはリハビリにもなると言われて道具をそろえた。今年も面白もつき、週一回のペースでパークゴルフを楽しんでいる。

先日、北見から写真つきの便りを頂いた。新任当時の校長先生が満百歳を迎えられ、敬老の日を受賞された様子を娘さんが報告くださったものである。

今年の六月、酒を酌み交わし談笑した折、「今、漢詩の勉強をしているよ。」と語つておられた元気な百歳である。

学ぶ事の多い先生の生き様に拍手を贈るとともに、こんな元気で百歳を迎えてみたいと思ふ今日この頃である。

## 回想



昭和三十二年卒 一類  
横内 美嗣

おもしろい？詩を目にした。それは木山捷平の詩「旅吟」とその詩の想念を記した集英社新書の著者の昭和三十九年十月ダイヤ改正時の即興詩「連絡船接続急行」である。

『連絡船の汽笛が／ばあうぼうと響いた／函館駅のホームには／網走 釧路 稚内／最果ての街の名を記した自動車／ぐるぐるるるんとエンジン音を立てている／リュックやらボストンが／十和田丸から吐き出され／ぞろりぞろり流れ出る／やがてスピーカーが鳴った／「急行オホーツク 摩周 宗谷は／間もなく発車いたします」／一語一語を区切った音に／荷物が物憂そうに立ちあがる』「日本鉄道詩紀行」きむらげん著

函館港には、青函連絡船摩周丸が今も面影を残しているが、大学時代の弘前遠征から就職時代の就学旅行・PTA研修旅行等、旧函館駅と連絡船には随分

世話になったものである。

木山捷平の詩中の「汽車」はずでにSLからジーゼルになり、噴火湾（内浦湾）を大迂回しているが、当時の私も大迂回して乗用車で檜山管内から胆振管内の豊浦町に転勤していた。国道といつてもまだ未舗装で、砂塵を巻き上げて線路沿いに走ったことが懐かしく思い出される。

現在はバイパスや陸橋、高速自動車道まで整備されて、昔の面影がなくなりつつあり、新幹線が新函館までくるといふ。

春夏秋冬

これ晴遊雨遊



昭和三十二年卒 二類 奥谷雅喜

春Ⅱさくら餅みなふくらんで灯る街

夏Ⅱ遠花火海峽わたる音悲し

秋Ⅱふるさとの厨の匂いの落葉焚く

冬Ⅱ空耳という耳不思議雪が積む

斑ボケの防止に少しでも効き目があるのではと、極楽文芸に手を染めて自己満足：：そんな昨

今。

○退職時には、昨日になかった今日の自分を実感できる日々と柄にもないことを決めたみたいだが、愚直な私のこと、今日もきのうと同じ。いやそれ以下。

明日も今日と同じ繰り返し、いやいやそれ以下。そんな昨今。○暮れなずむ街へ昔の仲間と馴染みのスナックへ。生ビールとおはこのカラオケ。毎度同じ歌。周りが聴いている「ふり」をしていて陶酔：：新しい歌を覚えるは所詮、炒り豆に花を咲かせるような無理な話。そんな昨今。

○現代のIT社会から見放されついでいけなくても、決して挫けず。週三回のテニス・週一回の卓球と走りまわり、シャワーと第三のビール、発泡酒で上々の機嫌。そんな昨今。

そう糠の妻と自然のまま、日々を送っている。そして、歳を重ねても、

側隠の情だけはわすれないで生活したいと思



マスターズ陸上競技に魅せられて



昭和三十二年卒 二類 斎藤英明

平成十五年、六十六才で北海道マスターズ陸上競技連盟に入会する。因みに、男性は三十五才から加入できる。今年の道南支部会員は、男性二十三名で、女性十三名である。

この五年間、全道選手権大会を始め各記録会に出場する。松山管内青年団陸上競技大会以来の何十年振りのスパイクを履く。

参加種目は、百、二百、四百、八百mの短中距離種目と三千里競歩。そして走高跳、走幅跳、三段跳の跳躍種目である。

いつも自己記録更新を狙って参加しているが、その時の体調や競技場のコンディションで不定である。気持ちばかり先走り、身体が反応しない。又種目も走

か跳に絞る必要があると思う。慢性的腰痛、左太股の筋肉痛助間痛とも戦いながらの参加である。健康と体力の現状維持を心がけ、決して無理をしないで競技を楽しんでいる。

それは楽しみは、各地の仲間と交流ができることである。男女年令を問わず、会う度に話しが弾み、情報交換等深まるばかりである。「また、会いましょう。」が合言葉である。

秋の陽の中で



昭和三十二年卒 二類 須賀ユキ

その為に、一年中トレーニング中心の生活を心がけている。朝夕のウォーキング、ストレッチ体操と補強運動。冬場は歩くスキーやランニングマシンでの走行等々である。健康である限り、スパイクを履きたいと考えている。

「夕陽渡島」現役最前線の皆さん、リタイアの皆さん如何お過ごしですか。時折の会報ありがとうございます。若さには元

氣をもらい先輩には心強い生きる知恵をいただいております。私の住んでいる七飯町は会員

数の多い支会です。中でも大先輩のIさん（傘寿も越されて）

は春の支会総会には必ずお見え

になるのです。しかもどつさりのお土産を持参で。それが楽しみで私も近頃は欠席することなく参加しています。

趣味でおっしゃり、こつこつ作り溜められたIさんの温もりのこもった和紙細工が会場のみんなに配られるのです。私の廻りはペン立て、眼鏡入れ、ティッシュケースとIさんの小物たちで賑やかです。おそらく現職の頃のI先生は手先の器用さのみならず指導力、判断力、応用力と兼ね備えた学校には無くてはならない有力な先生であつたにちがひありません。

さて自分の近況はといえば情けなくも無為徒食の類で、さながら黄昏がかつた秋の陽光浴をしている日々です。「黄昏」といえば、確かキャサリン・ヘッパバーン晩年のヘンリー・フォンドとの共演で同名の映画がありました。あの老いと若さの絶妙のハーモニーが心に残っています。老いの役割が死の中に生きるとしたら、そのような輝きこそが黄昏時のいぶし銀と言えるのでしょうか。



平成18年度「大懇親会・新会員歓迎会」 〈懇親風景〉



〈拍手・寮歌大合唱〉

**終身会員の皆様へ**

「平成十八年度 勇退者 激励・感謝の会」を次のように開催いたしますので、ご案内申し上げます。

◎平成十九年二月十日(土) 午後五時より

◎会場 ホテル法華クラブ

◎会費 六千五百円

◎申し込み締め切り 一月十五日(月)

◎申し込み方法 同封の葉書にて

**あとがき**

新会員及び終身会員の皆様からのご寄稿を特集した、『夕陽渡島』第百号をお届けいたします。大変お忙しい中ご寄稿下さいました皆様、誠に有難うございました。お陰様をもちまして、区切りの百号を発行することができました。

今後とも会員の皆様のご協力によりよろしくお願いいたします。